

実践記録（小4・総合的な学習の時間）

1 ねらい

いろいろな運動を分解し、動きの組み合わせを考えることができる。

2 手立て

- 学校放送番組の活用

学校放送番組を視聴し、プログラミングについて視覚的に理解することで、実際に自分たちで運動を一つ一つの動きに分解し、その組み合わせを考えることができるようにさせる。

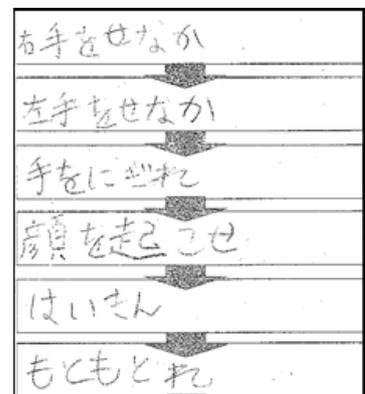
- マインドマップを使った動きの分解

マインドマップを使って、運動を分解させる。まずは自分が分解したい運動の名称をマップの中心に書き（「腹筋運動」など）、できる限り細かい動き（「ひざを立てる」や「左手を挙げる」など）を想像しながら、マインドマップに書き込ませる。

3 実践の様子

児童たちは前時の学習で学校放送番組を視聴し、腹筋運動を分解して動きの組み合わせを考える活動を行った。本時では、それぞれが分解して考えたい運動を決め、それを分解して動きの組み合わせを考える活動を行った。

まず、マインドマップを使って、分解しようとした運動をマップの中心に書かせた。まずは自由に細かな動きを想像させ、どんどんマインドマップへ書き出させた。その後、運動につながる動きの組み合わせを考えさせた後、友達とペアになって、互いの組み合わせを実際に実行してみることを伝えた。児童たちは、自分たちが考えた動きの組み合わせを試してみることができることを知ると、「やってみたい！」とわくわくした様子であった。右の資料は、「背筋運動」を分解し、児童が考えた動きの組み合わせである。ワークシートにはマインドマップで考えた動きを上から順に書き込ませ、動きの順序が分かるようにした。



【「背筋運動」につながる動きの組み合わせ】

次に、自分の考えた運動の動きを、実際に友達で実行させた。自分が考えて動くだけでなく、実際に友達に動きの指示を出すことによって、視覚的に自分が考えた動きの組み合わせを確かめさせると、「あれ、うまくいかないな。」と、動きの組み合わせに問題点を見付ける児童の姿が見られた。その後、友達に動きを試してもらいながら、よりよい運動につながるように改善点を見付けようとするなど、自分の考えを見つめ直し、よりよくしようと考えを深める児童の姿が見られた。

4 成果と課題

- 学校放送番組を視聴したことは、プログラミングについて学ぶ良いきっかけとなった。
- マインドマップを活用し、想像した動きをたくさん書き残すことができたので、動きを組み合わせる際には、迷わず取り組むことができる児童が多く、効果的だった。
- 児童たちは分解したり組み合わせたりすることを楽しむにとどまった。分解することで分かる運動のポイントに気付かせるための声掛けや手立てを工夫する必要があると感じた。